

- 1. 塾生対象者**
本テーマに関連する専門領域を有する法人派遣者及び本テーマに関心の強い法人ならびに個人
- 2. 定員：**30名
- 3. 参加費：**20万円（税込）
- 4. 選考方法**
書類審査によって入塾を決定します。応募者多数の場合は締切を早める場合があります。その場合は東京大学ホームページ内「グレーター東大塾」のページに掲載します。
- 5. 出願方法と出願期間**
(1) 出願方法 参加申込は東京大学ホームページより「グレーター東大塾」を検索し、申込書をダウンロードして、必要事項をご記入の上メールにてお送りください。送り先は申込書に記載しています。
(2) 締切り日 2018年3月23日(金)（応募状況によっては締切りを早める場合があります。）
- 6. 審査・選考結果発表**
・書類審査の結果は、2018年3月27日(火)までにメールにて通知いたします。
・選考結果通知後に参加を辞退する場合は、速やかに申し出てください。
- 7. 開講式、修了証書授与式**
当塾は開講式（4/11）と修了証書授与式（7/4）を行います。時間は18：00開始、場所は本郷キャンパス。
- 8. 参加費の納付**
受講が確定した塾生に、参加費納付関連の書類、請求書を郵送いたしますので請求書に記載の期限までに納付願います。
- 9. 個人情報の取り扱い及び注意事項**
・提出された書類は、いかなる事情があっても返却には応じられません。
・出願により知り得た氏名、住所、その他個人情報については、参加者選考、選考結果通知、入塾手続き業務を行うために利用します。また、同個人情報は、入塾者の教務関係や受講料徴収に関わる業務を行うために利用します。上記各種業務は、一部を本学より受託業者に委託して行うことがあり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部又は一部を提供する場合があります。
・講義録を取りまとめて出版する場合があります。
・本募集要項の記載内容は変更される場合があります。

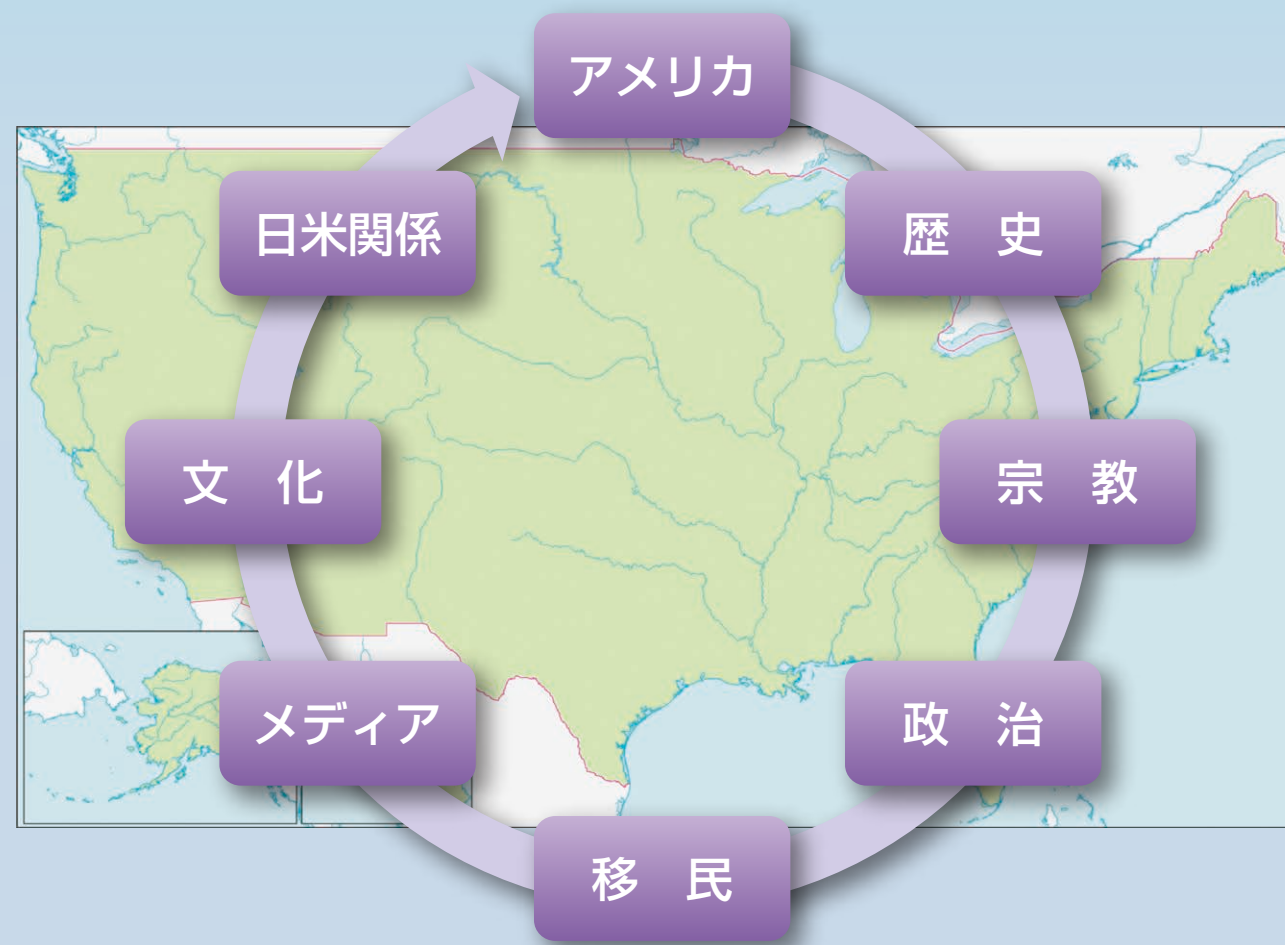
お問合せ、お申込先
 東京大学卒業生室内・グレーター東大塾事務局 プログラムオフィサー：藍原 秀夫／小引 康彦
 〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1
 TEL：03-5841-1210 FAX：03-5841-1054 E-mail：gtj.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

参加塾生総数
400名

開催実績	講座名	塾長
9	H27年春 「持続可能な社会のための水システムイノベーション」	東京大学大学院工学系研究科教授 古米 弘明
10	H27年秋 「飛躍するアフリカと新たな視座」	東京大学大学院総合文化研究科教授 遠藤 貢
11	H28年春 「[水素社会]から日本のエネルギーの未来を考える」	東京大学教養学部附属教養教育高度化機構 環境エネルギー科学特別部門教授 瀬川 浩司
12	H28年秋 「イスラームとどう付き合うか —グローバル化する社会と宗教の深層」	東京大学東洋文化研究所教授 長沢 栄治
13	H29年春 「人工知能技術の進歩と社会革新」	東京大学大学院情報理工学系研究科 研究科長・教授 石川 正俊
14	H29年秋 「持続可能な成長型超高齢社会に向けて」	東京大学大学院人文社会系研究科教授 白波瀬 佐和子

(塾長の肩書は開催当時)

21世紀のアメリカ ～トランプのアメリカを読む



グレーター東大塾

テーマ 『21世紀のアメリカ
～トランプのアメリカを読む』

会場／東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術研究センター

塾長：
 東京大学大学院総合文化研究科
 教授 西崎 文子
 教授 矢口 祐人

アメリカ

グレーター東大塾

グレーターとは、在学教育を拡大して卒業生や社会人を対象とすることから名付けています。先端専門性の高いテーマをピックアップして、課題に精通する第一線教授陣を長とする、「塾」形式で開講します。



ご挨拶



松木 則夫 (東京大学 理事・副学長)

グレーター東大塾は、先端専門性に焦点を置き、現実社会の身近なテーマを取り上げて、塾長となる教授の指導のもとに展開するユニークなものです。一般教養の講義というレベルを超えて、大学と社会が連携して第一線の課題に取り組み、問題解決のネットワークを構築する、それが本プログラムの目的です。各方面から、広くご受講くださることを願います。

グレーター東大塾の概要

監修

グレーター東大塾企画委員会 委員長 野城 智也 (東京大学 教授)

場 所 東京大学本郷キャンパス内
時 間 平日夜、18時～20時半
期 間 半期、10コマ
規 模 塾生30名程度
参加費 20～30万円前後(プログラムにより異なる)

特 色

- 先端・専門性の高い現代社会的テーマ
- 塾長の個性を尊重した多種多様なプログラム
- 外部講師も含めた実践的内容
- 塾生参加による共同研究・政策提言なども視野



塾長 西崎 文子 教授

〈プロフィール〉

総合文化研究科教授。1959年仙台市生まれ。グローバル地域研究機構長、アメリカ太平洋地域研究センター長。東京大学教養学部教養学科(アメリカ科)卒、一橋大学法学研究科博士前期課程修了、イェール大学博士課程修了(Ph.D 歴史学)。成蹊大学法学部助教授、教授を経て2012年より現職。専門はアメリカ政治外交史。とくにアメリカ外交や政治の歴史的基盤や思想的系譜を探ることを研究主題としている。著書に『アメリカ冷戦政策と国連、1945-1950』(東京大学出版会、1992年)、『アメリカ外交とは何か』(岩波書店、2004年)、『紛争・対立・暴力—世界の地域から』(編著、岩波書店、2016年)、『戦後アメリカ外交史 第3版』(共著、有斐閣、2017年)など。



塾長 矢口 祐人 教授

〈プロフィール〉

総合文化研究科教授。1966年札幌市生まれ。コーシエン大学教養学部卒業、ウィリアム・アンド・メアリ大学大学院修士課程・博士課程修了(Ph.D.)。専門はアメリカ文化論。とくにアメリカにおける過去の記憶をミュージアムや観光などの現代文化の視点から考察している。著書に『ハワイの歴史と文化』(中公新書 2002年)、『憧れのハワイ』(中央公論新社 2011年、ヨゼフ・ロゲンドルフ賞)、『奇妙なアメリカ』(新潮選書 2014年)、共編著に『現代アメリカのキーワード』(中公新書 2006年)、A Japanese Robinson Crusoe (University of Hawai'i Press 2009年)、『真珠湾を語る～歴史・教育・記憶』(東京大学出版会 2011年)など。現在、アメリカにおけるアメリカ研究誌American Quarterlyの副編集長を務める。

アメリカ

21世紀のアメリカ ～トランプのアメリカを読む

塾長：東京大学大学院総合文化研究科 教授 西崎 文子
教授 矢口 祐人

アメリカ合衆国にドナルド・トランプ大統領が誕生して一年が過ぎました。世界の超大国の今後は日本にとっても他人事ではありません。これからのアメリカはどこに向かうのでしょうか。本講座ではトランプ政権下のアメリカを中心に、アメリカの過去と現在、そして未来を考えます。

アメリカは日本人がもっとも多く訪れる海外渡航先で、その数は年間360万人にもなります。在留邦人数がもっとも多いのもアメリカです。大統領選に限らず、アメリカの政治や経済、社会の動向は比較的良好に知られていますし、映画、音楽、スポーツなどに関心を持つ人も少なくありません。

アメリカは日本にとって身近な国です。しかし実は知っているようで知らない側面もあるのがアメリカです。例えば、トランプ大統領の破天荒な行動は広く知られているものの、その背景にあるアメリカの歴史や地理は意外に理解されていません。トランプとその政権を理解するには、彼を生み出したアメリカ社会と文化の特質を丁寧に、学際的に考える必要があります。

本講義では日本を代表する講師陣が現代のアメリカを多角的に論じます。講義の前半は政治経済状況を考え、後半はアメリカの文化、さらには日米関係の今後にも焦点をあてることで、立体的でダイナミックなアメリカ観を提供します。

■ 平成30年度春期 グレーター東大塾 講座予定

開催日	講座名・内容	講師
4月18日(水)	第1回 イントロダクション アメリカの『今』を考える—歴史の連続性・非連続性の観点から 異例づくしとされるトランプ政権の誕生は、他方ではアメリカ史の連続性を際立たせる面も兼ね備えている。確かにトランプ政権のもとで人種・エスニシティ間の亀裂やイデオロギー対立が劇的に進み、外交における単独主義的傾向が昂じていることは間違いない。しかし、このような傾向は決して新奇な現象ではなく、歴史の中にその源泉を見出すことができる。初回の講義では、アメリカの「今」を、歴史の「連続性」と「非連続性」をキーワードとして考察する。	東京大学大学院 総合文化研究科 教授 西崎 文子
4月25日(水)	第2回 反知性主義 反知性主義・陰謀論・ポスト真実—宗教史からみたトランプのアメリカ 1963年に「反知性主義」論を著したホフスタッターは、その翌年にアメリカ政治の「偏執症」傾向を論じている。本邦で誤解されがちなこれらの用語は、いずれもアメリカ宗教史の深みから生み出され、今日も人びとの心を支配する特徴的な思考パターンとなっている。なぜ白人福音派の8割がトランプを支持したのか。なぜアメリカは国際協定に背を向けるのか。なぜ進化論は否定され、陰謀論は跋扈するのか。講義では、これらの問いを歴史的な背景から探り直してみたい。	国際基督教大学 教授・副学長 森本 あんり
5月9日(水)	第3回 外 交 トランプのアメリカはどこから生まれたのか—イリベラル・デモクラシーの起源について 自由主義ではない民主主義。国民の選んだ政府が委任された権力を拡大し、権力への規制を阻んでしまう。政治思想が悪夢としてきたこの可能性が、ドナルド・トランプ氏のアメリカ大統領就任とともに現実となり、しかもアメリカ一國ばかりでなくロシア、西欧、東欧、さらにアジア諸国の一部にまで及んでいる。それはなぜか。国際比較の中でイリベラル・デモクラシーの国内的起源を考え、それが国際秩序に与える影響を検討する。	東京大学大学院 法学政治学研究科 教授 藤原 帰一

講義時間：90分(講義)+60分(質疑応答) 18:00～20:30

開催日	講座名・内容	講師
5月16日(水)	第4回 国内政治 トランプを当選させたアメリカ政治の分析—その背景・現状および今後 トランプ氏のように、軍歴も政治経験も皆無の人物が二大政党の大統領公認候補に指名されたのは、第二次世界大戦終了後2016年が初めてであった。共和党が孤立主義者を指名したのも戦後初である。二大政党の大統領候補どちらもが、保護貿易主義であるのも、やはり戦後初めてのことである。このような変化が起きた原因について、アメリカ国内政治の文脈から掘り起こすとともに、トランプ政権の現状について分析する。	東京大学大学院 法学政治学研究科 教授 久保 文明
5月23日(水)	第5回 移 民 格差社会アメリカ—多人種都市ロスアンジェルス 「格差社会アメリカ—多人種都市ロスアンジェルス」の事例から「格差社会アメリカ」がどのように形成されたのかを、ロスアンジェルス事例を考察する。1992年4月、黒人青年R・キングへの暴行事件で起訴された警官に下された無罪判決への抗議として「20世紀のアメリカ史上最大規模の暴動」がロスアンジェルスで起きた。米国史上初の「多民族暴動」とも言われたこの蜂起はなぜ起きたのか。公民権法制定及び1965年の移民法改正以降も続く人種主義の潮流と産業構造の変化に伴う格差拡大のなかに位置づけ、その背景を探る。	東京大学大学院 総合文化研究科 准教授 土屋 和代
5月30日(水)	第6回 ポピュラーカルチャー 世論形成と自浄装置としてのポピュラー・カルチャー：トランプ政権下を例に アメリカが世界で覇権を行使できている大きな要素としてアメリカから発信されるポピュラー・カルチャーがあるとと言っても過言ではない。同時にアメリカ国内に目を向ければ、ポピュラー・カルチャーが大いに政治性を包蔵し、社会通念や制度の変革に一役を担ってきたことも否めない。現政権下の世論形成も例に挙げながら、日常から紡ぎだされる政治がポピュラー・カルチャーを通じていかに発信されるかを議論したい。	東京大学大学院 総合文化研究科 准教授 板津 木綿子
6月6日(水)	第7回 メディア トランプ時代の米国メディア—SNSの普及と伝統的ジャーナリズムの行方 2016年の大統領選以降、「フェイクニュース」という言葉が流行し、テレビや新聞など、伝統的な米国のメディア全体の信頼度が落ちている。同時に、トランプ大統領は、大統領就任以降も自らツイッターを使って、米国社会を分断するような意見や所感を次々と発信してきた。この講義では、トランプ政権発足時から今日までの米国メディアを概観する。とりわけ、フェイスブックやツイッターなど、ソーシャルネットワーク・サービス(SNS)が普及し、それらが伝統的ジャーナリズム、ならびに社会全体に与える影響について考えたい。	東京大学大学院 情報学環学際 情報学府 教授 林 香里
6月13日(水)	第8回 ジェンダー・セクシュアリティ 現代アメリカ—『性』のキーワード 女性蔑視的な言動が取りざたされながらも、投票した白人女性の過半数の支持を得て当選したトランプ大統領。就任翌日には、全米でWomen's Marchが動員され、史上最大規模の抗議行進となった。その後も、女性の地位や権利を脅かす政策が発案されたり施行されたりするいっほうで、政治からメディアなど様々な分野で蔓延してきた性的ハラスメントが明るみに出て、著名人が次々に職を失うという非常事態になっている。この講義では、「性」の様相を表すキーワードのいくつかを解説しながら、現代アメリカ社会を考察する。	ハワイ大学 教授 吉原 真里
6月20日(水)	第9回 スポーツ スポーツ—アメリカ社会を映し出す鏡 18世紀イギリスに発した近代スポーツは、イギリスの北米大陸の植民地経営とともに新世界にも広がり、アメリカ合衆国独立後は国民文化の重要な側面として発展を遂げた。しかしスポーツへの参加は、社会階級、人種、ジェンダーなどの諸要因によって複雑に規定されてきた。本講義は、アメリカの国民的スポーツとも言えるフットボール、野球、バスケットボールを中心にその発生と普及過程を概観し、スポーツを通して現代アメリカ社会が抱える諸問題をあぶり出すことをめざしたい。	ライス大学 教授 清水 さゆり
6月27日(水)	第10回 総 括 これからのアメリカ社会と日本 このシリーズの総括として、ここまで紹介されてきた今日のアメリカ社会の多様な側面を振り返るとともに、今後の日米関係のあり方について考察する。とりわけアメリカにおける人種やジェンダーを巡るさまざまな力学が日本の社会状況といかに共鳴、反目するかを論じることで、現代日本におけるアメリカ社会の意味を考えたい。	東京大学大学院 総合文化研究科 教授 矢口 祐人

※講師ならびに講座内容は変更される場合があります。ご了承ください。